

(株) 勝島経営研究所

環境活動レポート

Management Desing Office
KATSTUSHIMA Biz
For sensitive Management

平成19年6月 決算版

環境方針

外部環境へ順応するために内部環境を変革し、
社会貢献の一端を担う企業として、
地域社会の環境保全活動に尽力します。

1. 当社の業務及びサービスが与える環境影響を適切に把握するために、環境負荷・取組への評価を行います。
2. 評価に基づき環境目標を設定し、定期的に見直して、全従業員で継続的な改善に取り組みます。
3. 当社の事業に関連する環境の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 重点的に以下の項目について、活動計画を策定し、実行します。
 - ① 電気消費量の削減
 - ② ガス・水道消費量の削減
 - ③ ガソリン消費量の削減
 - ④ 廃棄物の削減・リサイクルの推進
5. 朝礼・定期ミーティングを通して、本方針を全従業員に周知するとともに、環境保全の重要性に対する自覚と意識向上を図ります。
6. 当社の活動内容は、『環境活動レポート』として、一般の方々に閲覧できるように致します。

平成17年7月11日 制定

(株)勝島経営研究所

代表取締役 勝島朝子

会社概要

事業者名

株式会社 勝島経営研究所ビジネスカツシマ
代表取締役 勝島 朝子

所在地

新潟県上越市栄町2丁目3番3号

環境管理責任者（環境コミュニケーション窓口）

二宮 直人・岡 潤一

会社の規模

設立：1990年7月14日
資本金：1000万円
社員数：17名
延べ床面積：305.2m²

事業内容

アカウンティング事業

- 月次試算表、決算書類作成及び経営指導
- 経営分析、事業計画書作成 ○カツシマ通信発刊
- 決算報告会 ○株式評価 ○標準保障額算定

コンサルティング事業

- HP作成、運営支援 ○ITソリューション支援
- マーケティング支援 ○各種研修会 開催
- ISO9001、14001認証支援 ○EA21認証支援

アウトソーシング事業

- 総務代行業務 ○営業支援業務

環境目標と実績

項目	2007年目標	2007年実績	達成状況
総エネルギー投入量	前期数値の維持・削減	前期比 16.1% 削減	○
総物質投入量	前期数値の維持・削減	前期比 23.7% 増加	×
水資源投入量	前期数値の維持・削減	前期比 2.2% 増加	×
温室効果ガス排出量	前期数値の維持・削減	前期比 16.3% 削減	○
廃棄物等総排出量	前期数値の維持・削減	循環資源量 前期比 31.2% 向上 最終処分量 前期比 50.8% 削減	○

※ 2007年度＝平成18年7月～平成19年6月

環境目標と実績-2

1. 総エネルギー投入量

項目	消費量・当期	消費量・前期	比較	単位
電 気	29,149	34,412	-15.3 %削減	kwh
	投入量・当期	投入量・前期	比較	単位
	286,534.67	338,269.96	-15.3 %削減	MJ
項目	消費量・当期	消費量・前期	比較	単位
ガ ス	252	320	-21.3 %削減	m ³
	投入量・当期	投入量・前期	比較	単位
	10,357.2	13,152.0	-21.3 %削減	MJ
項目	消費量・当期	消費量・前期	比較	単位
ガソリン	6,333.18	7,620.78	-16.9 %削減	ℓ
	投入量・当期	投入量・前期	比較	単位
	219,128.03	263,678.99	-16.9 %削減	MJ
合 計	投入量・当期	投入量・前期	比較	単位
	516,019.90	615,100.95	-16.1 %削減	MJ

※総エネルギー投入量＝消費量×単位発熱量

単位発熱量： 電 気 9.83(MJ/kWh)

ガ ス 41.1(MJ/Nm³)

ガソリン 34.6(MJ/l)

2. 総物質投入量

資源の種類	当 期	比 較			単位
印刷・コピー用紙	731.4	23.7	%	増加	Kg
	前 期				
	591.3				

環境目標と実績-3

3. 水資源投入量

項目	消費量・当期	消費量・前期	比較	単位
上水道	284	278	2.2 %増加	m ³

4. 温室効果ガス排出量

項目	消費量・当期	消費量・前期	比較	単位
電気	29,149	34,412	-15.3 %削減	kwh
	排出量・当期	排出量・前期	比較	単位
	11,018.32	13,007.74	-15.3 %削減	Kg-CO2
項目	消費量・当期	消費量・前期	比較	単位
ガス	252	320	-21.3 %削減	m ³
	排出量・当期	排出量・前期	比較	単位
	531.32	674.70	-21.3 %削減	Kg-CO2
項目	消費量・当期	消費量・前期	比較	単位
ガソリン	6,333.18	7,621	-16.9 %削減	ℓ
	排出量・当期	排出量・前期	比較	単位
	14,703.49	17,692.86	-16.9 %削減	Kg-CO2
合計	排出量・当期	排出量・前期	比較	単位
	26,253.14	31,375.30	-16.3 %削減	Kg-CO2

※温室効果ガス排出量＝消費量×排出係数 ①

or 消費量×排出係数×単位発熱量 ②

排出係数：電気 0.378 ①

ガス 0.05 ②

ガソリン 0.07 ②

環境目標と実績-4

5. 廃棄物等総排出量

資源の種類	当期	前期	差引	単位
白上質紙	49.9	263.9	-214.0	Kg
新聞紙	233.2	140.8	92.4	Kg
ダンボール	60	60.5	-0.5	Kg
セキュリティ文書	460	370	90.0	Kg
缶	17.5	17.6	-0.1	Kg
ビン	9.6	4.8	4.8	Kg
ペットボトル	6.6	7.2	-0.6	Kg
紙パック	43.7	24.8	18.9	Kg
プラスチック	47.3	43.5	3.8	Kg
その他可燃ゴミ	302.6	472.8	-170.2	Kg
その他不燃ゴミ	23	26.9	-3.9	Kg
			比較	増減
循環資源量	877.9	669.2	31.2	%増
最終処分量	375.5	763.6	-50.8	%減
総排出量	1253.4	1432.8	-12.5	%減

※循環資源量（リサイクルされるもの）

- ・新聞紙・ダンボール・缶・ビン・ペットボトル・紙パック
- ・プラスチック・セキュリティ文書

※最終処分量

- ・白上質紙・可燃ゴミ・不燃ゴミ

主要な環境活動計画の内容

環境目標を達成する為の取組

☆電気消費量の削減

- ・外出時、各自P Cの電源ダウン・省エネ蛍光灯への切替検討
- ・クールビズ実施・ブラインド使用による室温管理
エアコン 夏場 28℃設定
社内ではノーネクタイ

☆ガス消費量の削減

- ・湯沸し時の火力調整に気をつける
- ・夏場の給湯器使用を控える

☆水道消費量の削減

- ・トイレタンクに水入りペットボトル投入し
貯水量を削減する
- ・蛇口の水漏れ、出しっ放しに注意する

☆ガソリン消費量の削減

- ・燃費向上器具、ランナップを車輛の
給油タンクへ投入 10台中3台実施中
- ・その他燃費向上器具の調査、取付検討
- ・安全運転によるエコドライブ実施
- ・方向、路線を考慮した車輛の計画的共同利用
の実施
- ・車輛別の月次燃費を測定し、良燃費車の
使用頻度を向上させる
また、燃費不良車の廃車等を検討
- ・不良燃費車両の駐車場所変更

主要な環境活動計画の内容-2

環境目標を達成する為の取組

☆廃棄物の削減・リサイクルの推進

- ・印刷時の裏紙使用、裏紙トレイの設置
- ・両面コピー、2 u p印刷の推進
- ・メール、サイボウズ（グループウェアソフト）の活用による紙使用量の削減
- ・月末のコピー用紙在庫管理による月次使用量の把握
- ・分別ゴミの推進
- ・日々のゴミ排出量を秤により測定し、排出状況を確認する
- ・使用済み封筒の再使用
- ・通い箱（エコバック）の推進
- ・グリーン購入 A 4 白・B 4 白 再生紙購入
- ・機密文書はリサイクルセンターにて廃棄

☆環境教育

- ・車両別燃費チェック
- ・E A 2 1 の運用、管理
- ・緊急事態への対応
- ・環境上の法規制 当社の責務について

☆環境ボランティア活動への参加

- ・当期の参加はなし

☆中期環境目標

- ・2007～2008 全項目 前期数値の維持・削減
- ・2008～2009 全項目 前期数値の維持・削減

環境活動の取組結果の評価

☆総エネルギー投入量・温室効果ガス排出量について

電気については消費量を15.3%削減、ガスについては21.3%削減、ガソリンは16.9%削減となった。

来期以降も効果的な活動を引き続き実施し、可能であれば冬場でのウォームビス実施を検討する。

また、社外研修会への参加や、ランナップの効果を継続的に測定し、投入車両の増加や別の燃費向上器具の調査を行い導入を推進する。

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
総エネルギー対策	H18.6 時点		
	28	12	42.9
	H19.6 時点		
	28	12	42.9

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
温室効果ガス対策	H18.6 時点		
	46	42	91.3
	H19.6 時点		
	46	42	91.3

環境活動の取組結果の評価-2

☆総物質投入量について

印刷・コピー用紙については、23.7%の増加となった。

原因としては、H18.9～12月各月において実施した「勝島経営研究会・講演会」におけるレジメ作成により、印刷用紙の使用が増加したことが考えられる。

よって、業務上止むを得ない増加として捉え、来期以降は繁忙期や季節変動を考慮しながら目標を定め、裏紙使用などの活動を継続し、よりいっそうの投入量削減を目指す。

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
包装材等消費対策	H18.6 時点		
	34	7	20.6
	H19.6 時点		
	34	12	35.3

☆水資源投入量について

投入量は、2.2%の増加となったが、昨年で25%削減したため、この数量が最低基準であると考えられる。

来期以降は、目標とする『現状維持』を達成できるように、効果的な活動を継続して実施していく。

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
水資源投入対策	H18.6 時点		
	16	10	62.5
	H19.6 時点		
	16	10	62.5

環境活動の取組結果の評価-3

☆廃棄物等総排出量について

循環資源量については、31.2%のリサイクル増加、最終処分量については、50.8%削減となった。

白上質紙のシュレッダー廃棄を減少させ、機密文書としてリサイクルセンターにて処分し、循環資源化できたことが大きな要因となっている。

来期以降も業務上の繁忙期や季節変動を考慮しながら目標を定め、これまでの活動を継続し、よりいっそうの排出量削減を目指す。

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
廃棄物排出対策	H18.6 時点		
	46	45	97.8
	H19.6 時点		
	46	46	100.0

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
環境経営システム	H18.6 時点		
	88	66	75.0
	H19.6 時点		
	88	67	76.1

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

主な適用法規	該当する活動
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第3条 事業者の責務
家電リサイクル法	第6条 事業者及び消費者の責務
パソコンリサイクル法	第4条 事業者等の責務 第5条 消費者の責務
グリーン購入法	第5条 事業者及び国民の義務

☆違反、訴訟等について

環境関連法規への違反は無し。なお関係機関等からの指摘は無く、訴訟等についても同様に1件も無し。

なお、関係機関等からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

株式会社 勝島経営研究所ビジネスカツシマ

〒942-0072 新潟県上越市栄町2丁目3番3号

連絡先 TEL 025-545-5678

FAX 025-545-5677

E-mail iso@0255.co.jp

担当者 岡